

活躍する同窓生



# 公共に尽くす 公僕として 四半世紀

愛知県議会議員(民主党)

塚本 久氏



愛知県議会議員であり、名古屋学院大学同窓会理事でもある塚本 久さん(昭和45年卒業)。31歳の時に選挙に初出馬(昭和54年)して発展、連続7期にわたって当選。先頃、多年にわたり地方自治の進展に功労があったとして、藍綬褒章を受章されました。塚本さんにとって政治とは、また政治家を目指したきっかけとは…。議員歴25年目を迎えた今の心境を伺った。

## 県議会議員歴25年目の情熱

塚本さんが政治家を目指したきっかけは、愛知県議会議員であった父親の影響が大きいという。大学時代から印刷会社を営んでいた実家の仕事に経営者として携わりながら、父親の秘書も務め、「政治がより良い社会の発展のために重要な役割を果たしている」ことを父親の後姿から学んだと語る。「政治家は男としてやり甲斐のある職業である」と常々思っており、35歳を目標に選挙に打って出る青写真も描いていた。世にいう単なる二世議員ではないことを証明する、若くして明確な信念を持つていたようだ。しかし、父親の病气により、31歳にして選挙に初出馬。初当選から連続7期にわたり議席を確保されている。政治家を志した若き日の思いそのままに、「地域や社会、人々の生活を向上させていくためには政治家が粉骨砕身して頑張らねばならない。公共に尽くす公僕として、能力のある限り努力する」という姿勢を貫いている。議員歴25年目とい



31歳で初めて選挙に立候補した時のポスターとパンフレット

う長き年数を経ても、塚本さんの政治への情熱は決して醒めることがないようだ。

## 県民のより良い 生活環境づくりをお手伝い

今年4月の県議会議員選挙で、塚本さんは3つのマニフェスト(選挙公約)を打ち出した。

- ① 中小企業の再生支援に対して総合的に取り組む
- ② 癌治療の向上を図るため「愛知県がんセンター」の施設充実、バリアフリー社会の整備
- ③ 2005年の愛知万博「愛・地球博」の成功と万博後の新産業「産業観光」の育成

いずれも愛知県民にとって身近なテーマである。もちろん、独りよがりな政策を創り出すのではなく、県民のより良い生活環境を念頭に人々の声を聞きながら考えていく予定のようだ。この姿勢にも「相手の話をよく聞くこと」をモットーにする塚本さんの政治信条がよく表れている。

## 行動で信念の実現を

しかし、塚本さんにとって大きな悩みがある。それは慢性化する国民・県民の政治不信。「政治は皆さんの地域や社会を良くしていく推進力を持つもの」なので、もっと皆さんに政治への関心を深めてほしいと訴える。「誰もが多様な立場や主張を持っているはずだからこそ、政治に無関心になつてはいけない」とも。誰もが100%納得できる解決策はなかなかない、そこで多くの方々の意見を聞き、よりベターな施策を打ち出していく。「皆さんが自ら行動し、政治に参加することで、まだまだ社会は良くなる可能性を秘めている」と話す塚本さん。

まずは自ら掲げた3つのマニフェスト実現に向けて努めることで、「政治がより良い社会の発展に重要な役割を果たす」という信念を行動で示していくようだ。日頃、政治を身近に感じにくい今、我が同窓生の語る話には耳を傾ける要素が多々あるように思える。激動する社会の流れに身を置く私たちが、政治と面と向かつて真剣に対峙することの大切さを味わっていただいた取材となった。



愛知県議会における民主党代表質問を行う塚本氏